会　議　記　録

高松市附属機関等の会議の公開及び委員の公募に関する指針の規定により、次のとおり会議記録を公表します。

会 議 名	石清尾山古墳群調査整備会議 第６回整備部会
開催日時	令和元年７月３１日(水)１４時３０分～１７時
開催場所	四番丁スクエア１階 第１会議室
議　　題	議題１　保存活用計画　「活用」について
公開の区分	■　公開　　□　一部公開　　□　非公開
上記理由	
出席委員等	広瀬委員（国立歴史民俗博物館名誉教授）、大久保委員（徳島文理大学教授）、上杉委員（京都府立大学准教授）、林委員（兵庫県立大学大学院特命教授）、三井・佐々木オブザーバー（財務省四国財務局）、植江田・川崎オブザーバー（林野庁四国森林管理局香川森林管理事務所）、宮崎オブザーバー（香川県栗林公園観光事務所造園課）、松本オブザーバー（香川県教育委員会）
欠 席 者	なし
傍 聴 者	０人（定員１０人）
担当課及び連絡先	文化財課（文化財調査係） ８２３－２７１４

審議経過及び審議結果

審議経過及び結果

議題１を設定し、主に委員から以下の内容の意見を得た。

１　第６回整備部会開催の目的

保存活用計画のうち、「活用」についての事務局案を示した。会議では、活用に関する基本方針や各項目の方針等を示し、委員等から助言を得た。なお、今回の会議には、史跡指定地の土地所有及び占有機関の担当者にオブザーバーとして出席いただいた。

２　会議の状況

今回の会議で事務局が示した活用案に対して、大筋で同意を得た。ただし、個別に部分修正等の意見が示されたことから、意見を踏まえて案を修正する予定である。

３　会議で示された委員からの意見等

（１）活用の基本方針について

・方針２に「研究」を入れている点が、活用における積極的姿勢として評価できる。
・方針５には、地域との協力を示す文言を入れた方が良い。

審議経過及び審議結果
（２）ゾーンニングについて ・各ゾーンの特質を示し、それを踏まえた活用の戦略を冒頭で示した方が良い。 ・ゾーンＢは未指定の積石塚も隣接しており、計画での取扱いも踏まえた記述にしておく方が良い。 ・ゾーンＣは積石塚の精緻な調査成果があり、その点を踏まえた活用の戦略を検討すべきである。 ・ゾーンＣは一部が特別名勝栗林公園の借景の範囲と重複しており、それとの調和という視点を示す方が良い。 **（３）活用の方法について** ・保存活用計画では、墳丘上への見学路を整備する古墳の対象数を限定して記載しない方が良いかもしれない。 ・ガイダンス施設にどこまでの役割を与えるのか、他の施設の役割と矛盾なく整理しておく必要がある。 ・サイン整備について、多言語対応とする方針に異論はないが、文化庁が多言語対応について指針を示しており、英語だけでは国庫補助の対象とならないため、その点は留意した方が良い。 ・案内看板を整備することも重要だが、より効率的で効果的な方法での誘導方法を検討した方が良い（カーナビへの登録を働きかけるなど）。 ・現地以外に、石清尾山全体が見える箇所に説明板を設けることも、効果的と考えられる。 ・ホームページやＳＮＳを活用した情報発信についても記載しておく方が良い。 ・連携に関して、高松市内の文化財を連携させることも念頭に置いた記述にすべきである。 ・講座に関する事例が示されていないので、例えば古墳群を案内するボランティアを育成するための講座の開催というのも一案ではないか。 **４　次回会議について** ・次回会議は１０月３１日に開催し、保存活用計画全体の案を示し最終確認を行う予定である。